

第6学年 道徳学習指導案

1組 計24人(男子9人, 女子15人)

指導者 中 熊 信 仁

- 1 主 題 名 おたがいの立場を考えて (2-(4) 寛容・謙虚)
読み物資料「お別れ会」(学習研究社6年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【高学年2-(4)】
「謙虚な心を持ち、
広い心で自分と異なる
意見や立場を大切に
する。」

【中学校2-(5)】
「それぞれの個性や
立場を尊重し、いろ
いろなものの見方や
考え方があることを
理解して、謙虚に他
に学ぶ広い心をも
つ。」

(2) 指導内容についての基本的な立場

寛容とは、心がゆるやかで、よく人を許し入れること、謙虚とは、
控えめで素直なことである。この内容項目は、広がりや深まりのある
人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心を育てようとするも
のである。

この期の子どもたちは、相手の立場に立って、自分と異なる意見を
認めたり、相手の過ちを広い心で許してあげたりすることができるよ
うになってくる。しかし、時として、相手と意見が食い違ったり、行
動の行き違いがあったりすると、一方的に自分の考えに固執して、相
手の意見を聞かなくなり、周囲の人との関係を悪くすることもある。

このようなことから、自他共によりよく生きるためには、またお互
いの人間関係を円滑に運ぶためには、謙虚な態度と広い心が必要であ
る。

そこで、本主題では、特に相手の意見を素直に聞き、なぜそのよ
うな意見や立場をとるのかを、相手の立場に立って考える態度を身に付
け、異なった意見や立場に対しても、広い心で対処できるような心情
を育てることをねらいとしている。さらには、自分も過ちを犯すこと
があると自覚し、自分に対して謙虚であるからこそ、他人に対しても
寛容になれることにも気付かせていきたい。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

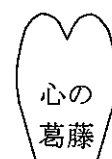
第5学年及び第6学年

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

自己とのかかわり	他者とのかかわり	集団・社会とのかかわり
◎自己の成長 (優しい人になれる)	◎信頼関係の深まり (互いを認め合え る)	◎支え合い助け合う生活 (互いに支え合い、助 け合って暮らせる)
◎自己の快い感情 (穏やかな気持ち になれる)	◎他者の成長 (他の人も優しく なれる)	◎気持ちの通い合い (互いの立場に立って 認め合える)
◎友達関係の伸長 (相手のことをもっ と理解できる)	◎他者の快い感情 (相手も気持ちが いい)	◎平和な住みよい社会 (争いがない)

二面性



実践を阻む 心の弱さ

- ◎自分本位な考
え方
(自分が困る)
- ◎衝動性
(かっとなって
相手を責める)
- ◎責任の転嫁
(自分は悪くな
い)

- ◎ 相手の立場や気持ちを考える ◎ 相手の意見を素直に聞く
◎ 広い心で接する ◎ 許す優しさをもつ ◎ 感情を抑える ◎ 落ち着いて考える

(◎は重点項目)

(4) 資料について

中心場面		主人公の心の動き	
【場 面】	(道徳的な見方・考え方)	【主人公の心情】	(心の弱さ) 【価 値】
① 直美は転校する小原さんのお別れ会に出席するか、家族とドライブに行くか迷っていた。しかし、友達との約束の方が大切だと思った直美はドライブを断った。	・ 大の仲良しだから心を込めて送ってあげよう。 ・ 転校したらめったに会うことができないから楽しい思い出を作っておきたい。 ・ お父さんとのドライブはこれからもできる。	・ 小原さんは、まだ一週間はこちらにいるから大丈夫だろう。だから、わざわざドライブを断る必要はない。 ・ 久しぶりの遠乗りドライブはきっと楽しいだろうな。	友情・信頼、助け合い、思いやり、親切、公德心、公正・正義、誠実・明朗、勇気、家族愛
② 直美は、小原さんからお別れ会が延期になったという電話をもらった。	・ 幸子さんと育代さん、小原さんに何か急な用事ができたのかな。仕方ないな。	・ こうなるのならドライブに行けばよかった。なぜ朝に連絡してくれなかったのだろう。	友情・信頼、助け合い、寛容・謙虚、思いやり・親切
③ 翌日、直美はお別れ会に出席できなかった育代と幸子から理由を聞いても、怒りが収まらなかった。	・ 急に都合が悪くなることは誰にでもある。 ・ まだ転校するまで日があるから、お別れ会は日を改めてすればいい。	・ 急に都合が悪いって言い出すなんて勝手だ。 ・ 自分も都合が悪かったけど、約束は約束だと思って都合をつけたのに。	寛容・謙虚、友情・信頼、助け合い、公德心、思いやり・親切、思慮・反省
④ そして、教室にいた小原さんを責めた。しかし、時間が経つにつれて、直美は何となくすっきりしない気持ちになっていった。	・ 小原さんを喜ばせたかったのに、逆に悲しませてしまった。 ・ みんなにも事情があるのに、自分の気持ちばかり言いすぎた。 ・ 許してあげよう。	・ やはり、腹が立つ。 ・ わたしは悪くない。 ・ どうして、小原さんが泣きそうになるの。わたしの方こそ、ドライブに行けず、寂しい思いをしたのに。	寛容・謙虚、友情・信頼、助け合い、思いやり、親切、思慮・反省

3 子どもの実態

(1) 道徳の時間に関する子どもの実態

(調査人数 24人 H18. 9. 22)

項 目	◎	○	△
資料の登場人物に疑問や共感、憧憬を感じる。	15	8	1
友達の意見に疑問や共感、憧憬を感じる。	8	14	2
教師や家族、地域の方の生き方や考え方に疑問や共感、憧憬を感じる。	11	11	2
自分の生き方や考え方に疑問や共感、憧憬を感じる。	10	14	0
「大事なんだけど、自分はできていないな」と思う。	7	16	1
「自分はこうだったな」とか「これからはこうしていきたいな」と自分のことを考える。	8	13	3
自分のこれまで行ってきたことに「やってよかったな」「いいことをしたな」と感じる。	10	12	2
道徳の時間に一生懸命考えようとしている。	11	13	0
道徳の時間に考えたことを「これからの生活に生かしていきたい」と思う。	9	14	1

(◎…よく当てはまる、○…どちらでもない、たまにある、△…まったく当てはまらない)

(2) 本主題に関する子どもの実態

(調査人数 24人 H18. 9. 15)

(ア) 本主題に関する経験場面①

(イ) 本主題に関する経験場面②

自分の失敗や過ちを許してもらった経験	人数	他の人の失敗や過ちを許せなかった経験	人数
約束を守らなかった	11	約束を破られた	9
物を壊してしまった	6	自分の物を勝手に使われた、汚された	5
たたいたり突き飛ばしたりしてしまった	2	けがをさせられた	3
その他(借りた物をなくした等)	5	悪口を言われた	2
(ウ) 道徳的価値の意義		その他(謝ってくれなかった等)	5
他の人の失敗や過ちを許すことが大切な理由	人数	(エ) 道徳的価値に対する心構え	
自分も同じことをするかもしれないから	10	失敗や過ちを許すために大切な心構え	人数
責めるともっと悲しくなるから	4	自分だったらどうだろうと考える	8
失敗や過ちだけで仲が悪くなりたくないから	3	すぐにかつとならないで広い心で接する	7
相手の気持ちを考えるとかわいそうだから	2	相手を責めない	3
友達だから	2	相手の気持ちを考える	2
気持ちがちよっとすっきりするから	1	優しくする、許す気持ちをもつ	2
許すことで自分も優しくなれるから	1	嫌だと思っても気持ちを抑えて我慢する	1
一人一人が大切だから	1	そうなった理由を考える	1

(3) 考 察

ア 道徳の時間に関する実態から

子どもたちは、道徳の時間に、よく登場人物に共感したり疑問をもったりしていると答えている。それに比べ、友達の話に共感したり疑問をもったり、教師や家族、地域の方との交流の中で、共感や疑問を感じたりしたことは少ないと答えている。また、道徳の時間に一生懸命考えていることはよくうかがえるが、これまでの自分をしっかり振り返ったり、これからの生き方を深く考えたりすることについては、よくできていると答えた子どもたちが少ない。また、道徳の時間において、十分に実践意欲をもてていないことも分かる。これらのことから、本学級においては、友達や地域の方との交流の場を十分にもつこと、更に、身近な生活と結び付けて考えられる授業づくりに努めることが必要であると考えられる。

イ 本主題に関する実態から

調査の結果から、本学級の子どもたちの多くは自分の失敗や過ちなどを許してもらい、うれしく感じた経験をしている。しかし同時に、他の人の失敗や過ちなどを許してあげられなかったことも経験している。その内容についても「約束を守らなかった」「約束を破られた」などどちらの経験も同じような場面のことが多い。その矛盾から、本時の課題意識を高めていきたい。

道徳的価値の意義については、「自分も同じことをするかもしれないから」と答えた子どもが4割以上おり、多くの子どもが自分とのかかわりにおいて考えていることが分かる。また、道徳的価値に対する心構えでも、「自分だったらどうだろうと考える」といった、自分に引き寄せた心構えが最も多い。

これらのことから、本主題を自己とのかかわりにおいて考えるだけでなく、他者とのかかわりや集団・社会とのかかわりにまで目を向けることができるように指導していく必要があると考える。

4 本 時

(1) 目 標

- 自分とは異なる立場の意見にも謙虚に耳を傾け、広い心でお互いを認めようとする心情を高めることができるようにする。

(2) 指導に当たって（研究の視点との関連）

- ◇ 「見つめる」過程において、お別れ会が延期になった翌日の場面の登場人物のセリフを考えることで、それぞれの登場人物の立場に立って、気持ちを共感的にとらえることができるようにする。その後、そのセリフを基に、全体場で役割演技をする時間を設定し、みんなで話し合うことで、登場人物の気持ちにより深く迫り、自分の考えを更に広げることができるようにする。

【視点1－イー（ウ）役割演技、動作化の充実、工夫】

- ◇ 「深める」過程において、主人公の気持ちをワークシートに書く時間を十分に確保し、机間指導をすることで、主人公の心の中をつぶやきや本音を引き出すことができるようにするとともに、教師は子どもの考えに対して、声かけや支援などを行い、自分を深く見つめることができるようにする。

【視点2－イー（ア）書く活動の充実、ワークシートの工夫】

- ◇ 「高める」過程において、寛容・謙虚さを特に必要とする職業に携わっている保護者を、ゲストティーチャーに招くことで、ねらいに関わる自らの体験や、子どもたちに対する期待、思いなどを語ってもらい、多様な生き方や考え方に触れることができるようにする。このことにより、道徳的価値の自覚をより効果的に深めるとともに、実践化への更なる意欲が高まるようにする。

【視点2－イー（イ）家族や地域との連携の強化、説話の充実】

(3) 展開

教師の言葉かけ

予想される子どもの反応

評価項目

◇ 研究の視点に関する内容

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	1 自分の失敗や過ちなどを許してもらった経験や、他の人の失敗や過ちなどを許せなかった経験について話し合う。 自分の失敗を許してもらったことがありますか。また、そのときどんな気持ちになりましたか。 友達の失敗を許せなかったことがありますか。また、その後どんな気持ちになりましたか。 遊ぶ約束を忘れて破ってしまったけど、友達は許してくれて、うれしかった。 遊びから帰る時間が遅くなったけど、お母さんは許してくれた。ホッとした。 委員会の活動に来なかったから怒った。でも、許してあげればよかったかな。 兄がわたしの大切なゲームを勝手にしたから許せなかった。いらいらした。 相手の失敗や過ちなどを許すためには、どのような気持ちをもつことが大切なのだろう。	○ 自分の失敗を許してもらった経験を話し合うことで、許してもらったことのような気持ちになるか、気付くことができるようにする。 ○ 友達の失敗を許せなかった経験とその後の心情について考えることで、問題意識を高め、本主題への方向付けをする。 ○ 登場人物の言動や心情についての感想を話し合うことで、追求したい場面を焦点化できるようにする。 ○ 自分にも同じような気持ちになったことがなかったか振り返りながら話し合うことで、登場人物の気持ちを共感的にとらえることができるようにする。
見 つ め る (25)	2 資料「お別れ会」を視聴し、登場人物の気持ちについて考え、話し合う。 (1) 初発の感想を話し合う。 直美さんが怒ったのは当然だ。こんな経験は僕にもあるよ。直美さんや小原さんの気持ちは分かるな。 (2) 行きたかったドライブを断っても、約束を守ろうとした直美の気持ちを話し合う。 家族とドライブに行きたかったのに、友達との約束を優先した直美は、小原さんに対してどのような気持ちでいたのだろう。 もうめったに会うことができないから、お別れ会で楽しい思い出を作っておこう。 太の仲良しだから心を込めてお別れ会をしたい。 (3) お別れ会が延期になった翌日の、友達一人一人の言い分について、役割演技をしながら話し合う。 【直美】自分はせっかく約束を守ろうとしたのに、みんな自分勝手だ。ドライブにも行けたのに。かつとなりすぎたかな。 【小原さん】そこまでしてくれた直美さんに対して、すまない。もっと早く連絡してあげたら、ごめんね、悪かった。 【育代と幸子】誰だって急に都合が悪くなることもあるんだから、仕方がない。まだ日があるし…。なぜそんなに怒ってるの。	◇ 翌日の場面の、一人一人のセリフを考えることで、それぞれの立場に立って、気持ちを共感的に考えることができるようにする。その後、そのセリフを基に役割演技をして、みんなで話し合うことで、登場人物の気持ちに深く迫り、自分の考えを更に広げることができるようにする。 ○ すっきりしなかった気持ちの背景を考えることで、道徳的価値を深く追求することができるようにする。 ◇ すっきりしない直美の気持ちをワークシートに書く時間を十分に確保し、机間指導をすることで、直美の心の中のつぶやきや本音を引き出すことができるようにする。
深 め る (20) 高 め る (10)	(4) 泣きそうな小原さんを見て、何となくすっきりしない直美の気持ちについて話し合う。 何となくすっきりしない直美の気持ちを考えてみよう。 わたしは悪くないのに…。でも、みんなにきつく言っても、全然気持ちはすっきりしないよ。 小原さんを喜ばせたかったのに、逆に悲しませてしまったのは、どうしてかな。 他の人にもそれぞれ事情があって仕方ないのに、自分の気持ちばかり言い過ぎてしまったな。 かつとなりすぎたな。許してあげればよかった。相手の立場を分かってあげることも大切かな。 3 相手の失敗や過ちなどを許すためには、どんな考えや気持ちが大切なのか、経験を基に話し合う。 4 相手の立場や気持ちを考えて、広い心で接することについて、ゲストティーチャーの話を聞く。	自分とは異なる立場の意見にも謙虚に耳を傾け、広い心でお互いを認めようとする心情を高めることができたか。 【発表・ワークシート】 ◇ ゲストティーチャーとして招かれた保護者の話を聞くことで、本主題に関する思いや、多様な生き方、考え方に触れることができるようにするとともに、実践意欲が高まるようにする。